

北陸鉄道は2023年10月13日に創立80周年を迎えました。

80年の感謝を乗せて これからも



北陸鉄道日本社前(現在の小将町)を走る金沢市内線と路線バス(昭和34年)

創立80周年を迎えて



北陸鉄道株式会社 代表取締役社長 宮岸武司

創立80周年記念 鉄道線こども無料キャンペーン実施中!

石川線・浅野川線の全区間(指定臨時列車を除く)で **こども(小学生以下)無料!** この機会に電車に乗って出掛けよう!

●対象日 10月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)

土曜・日曜限定

ほくてつ電車まつり2023開催

●日時 10月22日(日) 10:00～15:00 ●会場 鶴来駅構内特設会場

鉄道模型の展示や洗車機体験、鉄道部品や関連グッズの販売会など、内容盛りだくさん! 石川線・浅野川線利用促進キャラクター「のぞぞ」も登場します! 約40年ぶりとなる臨時急行列車の運行&撮影会も実施!

妖怪電車

ほくてつ電車まつり2023の開催に合わせ、大人気の企画電車「妖怪電車」を4年ぶりに運行いたします!

●日時 10月22日(日) 野町駅10:30発⇒鶴来駅11:17着

●料金 往復 おとな1,200円 小学生600円

※土日祝1日フリーエコさっふ+列車指定券がセットとなります。

※未就学児は列車指定券(300円)の購入が必要です。

●販売 10月13日(金) 10:00～ 野町駅・鶴来駅にて

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

(共催) 鶴来青年クラブ・スカイフェスタ実行委員会・鶴来商工会

10月14日～11月26日 浅野川線03系ラッピング車両を運行!

大正～昭和初期、内灘の砂丘地にあった大遊園地「栗ヶ崎遊園」をテーマに、いしかわ百万石文化祭2023内灘町実行委員会が全国からデザインを募集。石川県知事賞を受賞した作品を03系車両へラッピングし、いしかわ百万石文化祭2023開催期間に合わせて浅野川線で運行します。ラッピング車両に乗って、内灘町の歴史や文化を再発見してみたいはいかがでしょうか。

2023年10月13日

写真で見る

北陸鉄道の80年

1943 北陸鉄道設立
旧北陸鉄道・能登鉄道・温泉電気軌道・金名鉄道・金石電気鉄道・湯涌自動車・七尾交通の7社により北陸鉄道を設立(10月)

1945 浅野川電気鉄道合併(10月)

1952 金沢駅前バスターミナル営業開始(2月)

1952 第1回百万石まつり祝賀電車(4月)

1952 金沢市内定期観光遊覧バス運行開始(5月)

1958 朝の香林坊

1959 当社初の自動洗車機導入(5月)

1963 記録的豪雪(38豪雪)時の金沢市内線(1月)

1961 新車パレード(4月)

1968 本社を割出町に移転(10月)

1967 金沢市内線廃止、バスへバトンタッチ(2月)

1968 バスのワンマン化開始(11月) ※ワンマン化100%達成は1985年

1970 ジャンボボールオープン(9月)

1973 特急小松空港線運行開始(11月)

1981 小松空港内にスカイビューフェコスモスをオープン(9月)

1984 全国で3番目となる新バスシステム導入(11月)

1994 城下まちかなざわ周遊号運行開始(7月)

1991 高速新潟・金沢線運行開始(8月)

1990 石川線7000系車両運用開始(7月)

1987 野町ジャンクションターミナル完成(11月)

1987 高速名古屋・金沢線運行開始(7月)

1996 浅野川線8000系車両運用開始(12月)

1997 ノンステップバス運行開始(12月)

2000 金沢三文豪にちなんだボンネットバス運行開始(7月)

2000 特急高山・金沢線運行開始(10月)

2001 浅野川線北鉄金沢駅移設地下化工事完成(3月)

2015 北陸新幹線金沢開業(3月)

2010 ビジュアルバスロケーション導入(11月)

2004 ICa(アイカ)導入(12月)

2003 能登空港開港乗り入れ開始(7月)

2003 県庁移転・シティライナー運行開始(1月)

2015 石川線陽羽里駅開業(3月)

2020 新型コロナウイルス感染症の拡大によりバス・電車もマスクを装着(7月)

2020 浅野川線03系車両運用開始(12月)

2021 デジタル交通サービス『のりまっし金沢』スタート(10月) ※『のりまっし金沢』は、金沢MaaSコンソーシアムが運営するデジタル交通サービスです。

2023 創立80周年(10月)



地図で見る

北陸鉄道 鉄道線の80年

北陸鉄道の鉄道線には、金沢市内中心部をはじめ能登・加賀地区で地域の足として運行してきた歴史があります。創立80周年を記念し、そのあゆみを振り返ります。現在その多くはバスに転換されましたが、安全・安心は変わる事のない使命です。これからも皆さまに愛される鉄道・バスを目指し、走り続けます。



金沢市内線 (1919-1967)

金沢市内中心部を走った路面電車。全6系統で路線総延長は12.5km。乗車数がピークであった1947年には、一日平均10万6,000人の利用がありました。緑色の車両は「青電車」、2色のポギー車は「赤電車」と呼ばれ、市民の足として親しまれました。



広坂(旧金沢市役所前)を走る青電車

武蔵ヶ辻(現在のかなざわはこまち前)に停車する赤電車

金石線 (1898-1971)

中橋駅と大野港駅を結ぶ7.2km。港町金石・大野エリアと市内中心部を結び、貨物の運搬にも利用されました。



畷田駅に着く金石線

浅野川線 (1925-)

北鉄金沢駅と内灘駅を結ぶ6.8km。かつては粟ヶ崎海岸駅まで運行し、多くの海水浴客が利用しました。

現在は車両の置き換えも進んでいます



現在は車両の置き換えも進んでいます

松金線 (1904-1955)

野町駅前駅と松任駅を結ぶ8.4km。通勤・通学で金沢市内へ向かうお客さまを中心に、朝夕は超満員になったといわれています。



松任駅を発車する松金線

金名線 (1926-1987)

加賀一の宮駅と白山下駅を結ぶ16.8km。名古屋まで延伸する構想のもと名付けられましたが、実現には至りませんでした。



雪の白山麓を走る金名線

能美線 (1925-1980)

鶴来駅と新寺井駅を結ぶ16.7km。石川線・金名線と合わせて石川総線と呼ばれ、石川線への直通列車も運行していました。



手取川をゆく能美線

加南線 (1899-1971)

山中線(山中～大聖寺 8.9km)、動橋線(新動橋～宇和野 3.3km)、粟津線(新粟津～粟津温泉 3.5km)、連絡線(河南～粟津温泉 10.6km)、片山津線(片山津～動橋 2.7km)の総称。1963年以降、動橋線と連絡線の一部は山代線として運行しました。



那谷寺駅に停車する連絡線



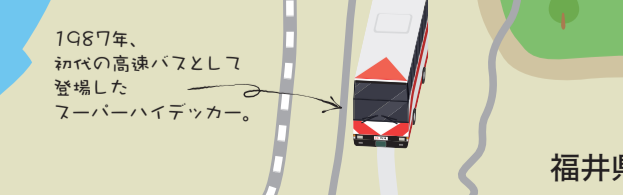
黒瀬町付近を走行する山中線「くたに号」

小松線 (1929-1986)

小松駅と鶴川遊泉寺駅を結ぶ5.9km。小松市街や、国鉄に乗り換え金沢方面に向かう通勤・通学の足を担いました。



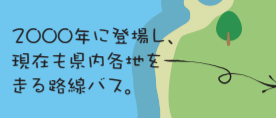
鶴川遊泉寺駅に停車する小松線



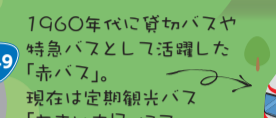
1987年、初代の高速バスとして登場したスーパーハイデッカー。



1993年以降登場した島のデザイン。現在は貸切バスとして県内外を運行中。



2000年に登場し、現在は県内各所を走る路線バス。



1960年代に貸切バスや特急バスとして活躍した「赤バス」。現在は定期観光バス「あてい号」にて復刻カラーを運行中。

能登線 (1925-1972)

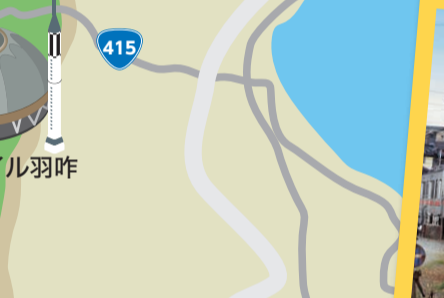
羽咋駅と三明駅を結ぶ25.5km。気多大社への初詣や海水浴のシーズンには、金沢駅から直通臨時列車も運行されました。



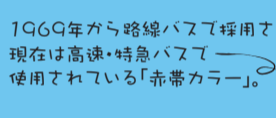
滝～柴垣間の海岸線を走る能登線

石川線 (1915-)

野町駅と鶴来駅を結ぶ13.8km。かつては野町駅から白菊町駅、鶴来駅から加賀一の宮駅まで運行していました。



冬季に活躍する除雪用電気機関車も在籍しています



1969年から路線バスで採用され、現在は高速・特急バスとして使用されている「赤帯カラー」。



白山連峰

福井県

富山県

金名線 (1926-1987)

能美線 (1925-1980)

加南線 (1899-1971)

小松線 (1929-1986)